

令和2年度

第2回

わくわく授業づくりワークショップ 『道徳科の授業づくりについて』

本日は、ご参加くださり、ありがとうございます。

お願い

- ①入室する際の名前に所属名を入力しておいてください。
(例) 「附属坂出小学校 山本健太」
- ②マイクはOFFにしてください。
- ③飲食はご自由にどうぞ♪

※開始時刻（18：30）まで、しばらくお待ちください。

チャット機能を使って、
番号で答えてください

Q：本ワークショップを、
どのように知りましたか？

- ①Eメール ②HP ③ちらし
④フェイスブック ⑤その他

チャット機能を使って、
お答えください

Q：担当学年・専門教科
を教えてください。

(例：6年 体育科)

本日の内容

1. 『ロレンゾの友達』（学研 わたしたちの道徳）
を用いた実践提案
※導入→展開→終末と3つの場面に分けて説明します。
2. 実践に関する質問，日々の道徳授業についての
質問タイム
3. ご指導（七條正典先生より）
4. フリータイム（評価方法など，質問を基に）

提案の流れ

○授業場面の説明と動画視聴



○各場面での働きかけの説明



○次の場面の動画…



○最後にまとめて先生方からの質疑・応答
(チャットに質問を, その都度打ち込んでください)



図 1. OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

OECDラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030



OECDラーニング・コンパス

「OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクトの成果」

- 教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた, 進化し続ける学習の枠組み。
- 教育の幅広い目標を支えるとともに, 私たちの望む未来 (Future We Want), つまり個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングに向けた方向性を示します。

ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）という比喻

→ 児童・生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で進むべき方向を見出す必要性を強調する目的。



図 1. OECD ラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030

自主的ではなく**主体的**な子供に…

自主的

あらかじめゴールが決められていて、そこに向かう道を一生懸命に走っている

主体的

自らゴールを設定し、そのゴールに向けて道を自ら選びながら問いながら走っている

問いづくり



道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性**を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「新 小・中学校学習指導要領第3章 特別の教科 道徳」

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を** **授業づくり** **を** 意欲と

「新 小・中学校学習指導要領第3章 特別の教科 道徳」

教材分析におけるポイント（附坂小）

授業前にすること

教材分析では、

- ①子供たちが考える場面（道徳的な変化の起こる場面）と考える内容（教材における主たる道徳的価値）を明らかにし、
- ②道徳的価値に関わる発問を精選する。

場面	登場人物のセリフ			ロレンソ
① ロレンソからの電報と警察から知らせを受け取る場面	アンドレ	サバイユ	ニコライ	③3人の友達に電報を送る。V
② 約束の日、3人がロレンソを待ち続ける場面	・遅いな。もしかして途中で捕まったのだろうか。 ・そのほうがいいのかもしれない。こんな状態では会いたくないからな。 ・もし夜中に訪ねてきたらどうしよう。 ・お金を持たせてだまって逃がしてやる。いけないうちもかもしれないけど。	・僕はロレンソに自首を勧める。本人が納得しない場合はそのまま逃がしてやったほうがいい	・もう遅いし帰ろうか。 ・僕も自首を勧める。でもだめだったら警察に知らせる。	
・それはかわいそうじゃないか。何もぼくたちがそんなことをしなくても…そんな友達を裏切るようなことができるものか。	・ニコライのいいたいことは分かるよ。だけど、ぼくにはできない。ニコライで逃げてきたっていうのは、よほどの事情があるのだから。	・友達をかばってにがしてやるのも友達かもしれない。でもびくびくしながら逃げ続けても、かえって友達が苦しむだけ		

場面				③ 再会を果たす 場面
登場人物のセリフ	アンドレ	サバユ	ニコライ	ロレンソ
	<p>△それぞれに眠れない夜をすごす。▽</p> <p>△ロレンソとの再会を果たす▽</p>			<p>・昨日はすまな かった。となりの 町まできたと き、刑事がいき なりぼくをここ に連れてきたも のだから、連絡 がつけられなかつ たんだ。</p>
<p>・間違いだったんだね！</p> <p>△四人は再会を祝って町の酒場へと向かった▽</p>				
<p>△あのかしの木の下で話し合ったことは三人とも口にしなかった▽</p> <p>△もしロレンソが本当に罪をおかして帰ってきたとしたら、自分は友人としてどうすべきだったのか、どうしていたのだろうか？三人は改めて考え始めた▽</p>				

① 子供が考える場面と考える内容

○ 友達としてどう接するのか葛藤する場面

その場面での登場人物の内面を推し量る。

道徳上の問題…友達であれば、どう接するのか。

アンドレ→お金を持たせて逃がす

サバイユ→納得しなければ逃がす

ニコライ→自首を勧める

※ どうして、そうしようと思ったのかを分析する

②発問の精選（チェックポイント）

- ①学習指導要領解説に示されている内容項目【友情, 信頼】に迫れているか。
- ②教材の中心場面（主人公の心情の変化・道徳的問題場面）に関わっているか。
※発問が主人公の生き方を支えた思いに迫っていること
- ③現実の世界に照らし合わせ, 考えを深めたり広げたりできるようになっているか。
- ④対話・議論をしたくなるために欠かせない問いになっているか。

②発問の精選（補助発問）

○主発問の補助になっているか

- ・「揺さぶり」や「問い返し」などによって、子供の思考にさらなる揺り動かしをかけることができる。
- ・「本当にそれでよいのか」「もしも～だったらどうするか」などによって子供の思考がさらに活性化することができる。

本時の中心的な発問と補助発問

友達としてどのように接すればいいのだろうか。

本当の友情とはどういうものだろうか。

自分にとって、3人のうち誰が親友ですか。

どうして「逃がそう」と思ったのですか。

授業構成の基本的な捉え（附坂小）

基本的な授業の構成（三つの場面）

導入	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階
展開	中心的な教材によって、子供一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

先生方の声

資料と自分の生活を結びつけるにはどうすれば？

子供たちは友達が容疑者に挙げられるという経験をしていないため、どう日常に落とし込むか悩みました。

「導入」におけるポイント（附坂小）

道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにするために、

写真や図等の視覚的な支援により経験を想起させたり、教材を事前に読んで書いた疑問や感想を示したりし、

その時に子供たちが感じたことや考えたことを表出できるようにする。

では、実際の授業を
ご覧ください。

導入場面



ロレンゾの友達

? 問いタイム

友 三人の友達が、声を合わせて
「ロレンゾ」と言った時どんな気持ちだったのか

友 自分がロレンゾの友達だったら、
どのように接するだろうか

友 自分がロレンゾだと
どう感じるのだろうか
(木の下に来てたのか)

友 三人はどんな相性で不仲
木またのか

友 本当の友達の意味

問



まだ犯人がどうか分からない

導入 (自分自身の問題として受け止められるようにする)

子供の問いを生かす

ロレンゾの友達

？ 問いタイム

友 三人の友達が、声を合わせて

「ロレンゾ」と言った時どんな気持ち持ったのか

友 自分がロレンゾの友達だったら、

どのように接するだろうか

友 自分がロレンゾだったら、

どう感じているのだろうか。(木の下に来てたら)

友 三人はどんな相いで木の下に集まったのか、

友 本当の友達の意味は？

子供の問いを生かす

2 自分のところが成長したと感ずること(ノートを基に)

「鳥の目タイム」で「思ったこと」だけじゃなくて、これから自分かどうするかとか、いままで「自分はど」うだったかとか考えられるようになった。問いは、最初教科書にかいていたのをそのままかいていたりしたけど、6年にな、てからは自分で考えて自分の思ったことを問いにかけるようになった。「ロシニ」の友達とほとりの人とえん筆対話をして、相手との意見ほちか、たけど、相手の意見と自分の意見、2つのことを合わせてかくことかできた。5年のときよりも深く考えられるようになった。相手の意見もあって、反情とは何かの自分の答えか、分ったと思、った。それもさらに「鳥の目タイム」か、かけた。

授業構成の基本的な捉え（附坂小）

基本的な授業の構成（三つの場面）

導入	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階
展開	中心的な教材によって、子供一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

「展開」で大切にしたいこと

① 道徳的に大切なこと（正直，友情，謙虚さ，礼儀…）が分かる。

・ 「分かったつもり」を「分かった!」にする。

価値理解

・ 「分かっているけど，なかなかできない」ことも分かる。

人間理解

・ 「いろいろな感じ方や考えがあるんだな」ということも分かる。

他者理解

「展開」で大切にしたいこと

②友達と話し合うなどして、いろいろな考え方に
出合ったり、物事をいろいろな角度から考
えたりする。

・「親切といっても、いろいろな親切があるん
だなあ」

多面的

・「A, B, C, それぞれの人の立場からいろい
ろなとらえかたができるんだなあ」

多角的

※ 2つを切り分けて考えることは難しい

先生方の声

対話のさせ方, タイミングが難しい。

自分の考えを伝えるだけで友達の見解を取り入れたり, 柔軟に自分の考えを変えたりという子があまり見られないのが気になります。

先生方の声

3人の考えで中間的な位置のサバイユ派が沢山いたことです。サバイユの考えが子供の中でいわゆる「こういう場合の無難な対応」になっている気がして、友達のことを本気で考えた結果ではないのではないかと気にしながら授業をしました。

先生方の声

「ロレンゾを逃がす」と答えた子供の「友達は大切だから」という考えを尊重しながら、「いけないことは友達でもいけない」ということを伝えなければいけない。このバランスがとても難しいと感じました。

なので、どうしても言葉の節々に一方の立場に偏っているなと感じます。教師自身にも迷いが出て、いくつかの立場に分かれ対話をした時、まとまりなく終わってしまうことがあります。

「展開」におけるポイント（附坂小）

二つの対話（自己との対話・他者との対話）を促すために、

集団内の多様な立場の存在を明らかにし、子供たちが自分の考えを選択・決定できるようにするとともに、自分の考えの理由を表出して、

他の考えの理由と比較できるようにする。

では、実際の授業を
ご覧ください。

展開場面
(他者との対話)



月 日 曜日
 温度 度
 就寝 起床
 時 時

は「か」した「ら」を「で」自「分」も「犯」罪「者」になっ「て」
 「な」る「し」、相「手」も「犯」罪「者」になっ「て」
 「女」事「も」自「分」も「相」手「も」い「や」な「気」
 「ら」に「さ」せ「て」しま「う」か「ら」

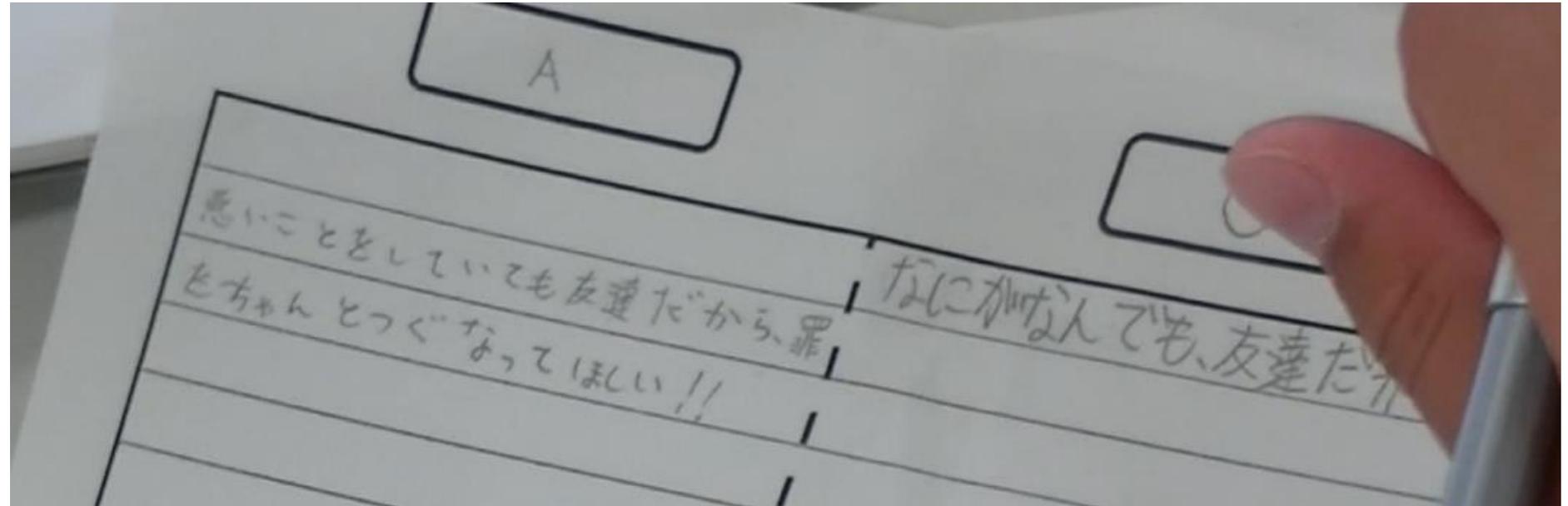
展開（他者との対話を促す）

筆談シート



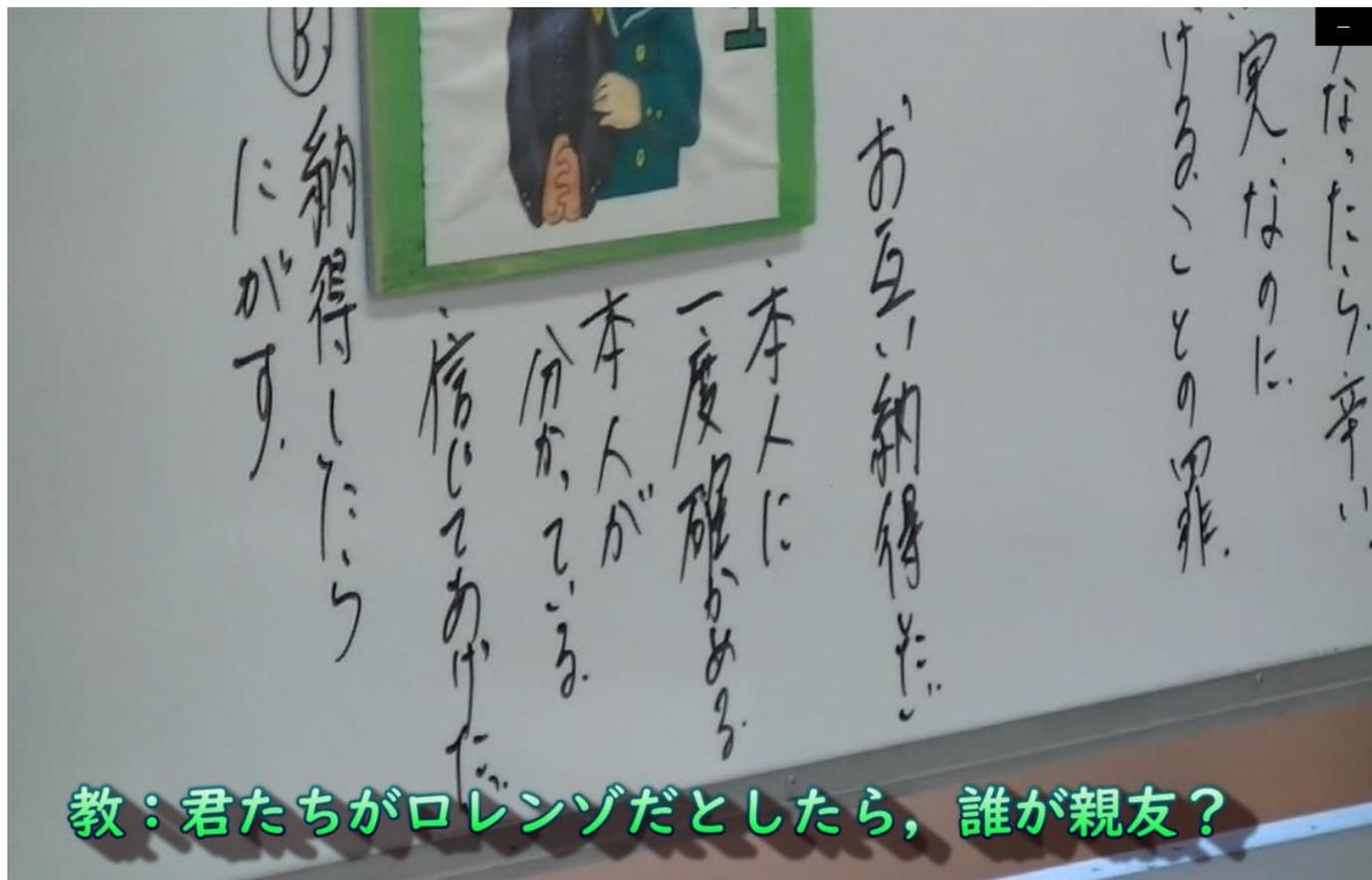
- ・対話の意欲を高める（学習意欲）
- ・対話の足跡が残る（UD）
- ・コロナ対策

筆談シート



- 対話の意欲を高める（学習意欲）
- 対話の足跡が残る（UD）
- コロナ対策

他者理解から、自分を見つめる



- 出された意見が出されっぱなしでなく、自分の生き方について考えられるように。

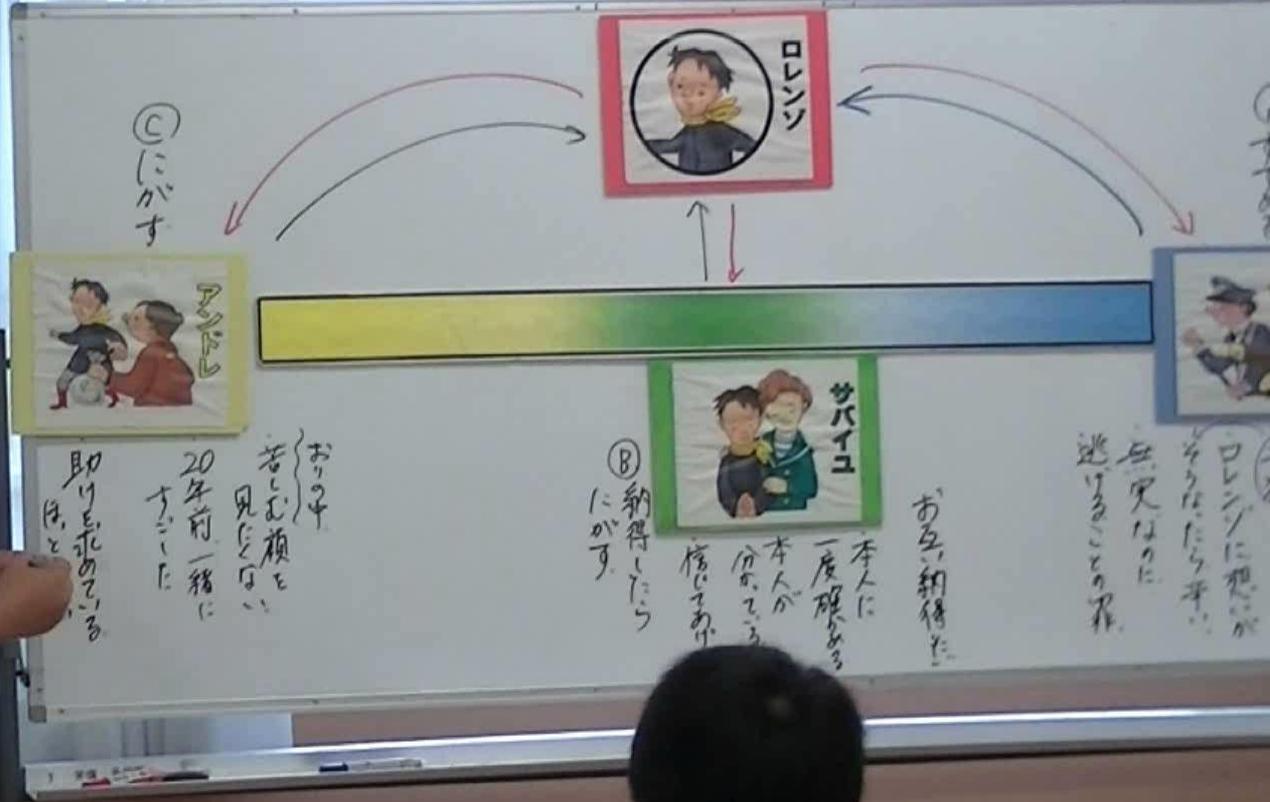
先生方の声

本当の友達とは何か, について考えを深めていくこと。表面的な答えではなく, それぞれの自己の生き方についての考えを深めていくことに難しさを感じています。

では、実際の授業を
ご覧ください。

展開場面
(自己との対話)





事前アンケートを生かす

The whiteboard diagram illustrates the concept of 'true friendship' through a cycle of three scenarios:

- ロマン (Romantic):** A central figure in a red box. A note next to it says 'A 自首する' (A: Confess).
- アドベンチャー (Adventure):** A figure in a yellow box. A note next to it says 'C にかす' (C: Cheat).
- ミステリー (Mystery):** A figure in a blue box. A note next to it says 'B 納得したら にかす' (B: Cheat after understanding).

Handwritten notes on the whiteboard provide further context:

- Under 'ロマン': 'おっちゃん 苦しみ顔も 見えない 20年前一緒に すまいた' (Uncle, I can't see your suffering face, 20 years ago we were together, it's fine).
- Under 'アドベンチャー': 'おっちゃん 苦しみ顔も 見えない 20年前一緒に すまいた' (Uncle, I can't see your suffering face, 20 years ago we were together, it's fine).
- Under 'ミステリー': 'おっちゃん 苦しみ顔も 見えない 20年前一緒に すまいた' (Uncle, I can't see your suffering face, 20 years ago we were together, it's fine).

At the bottom of the whiteboard, a large green text overlay asks: **教：本当の友情ってどういうこと？** (Teacher: What is true friendship?)

事前アンケートを生かす

・あなたにとって 友情とはどういうものですか？

友達のことまわっているとき友達の間で
しが正しくいことなむならたすけあつかい。

自分はつねに 相手を想い 考え相手も自分につ
ねに想い合っていること。
ダメはダメと云うこと。

・あなたにとって 友情とはどういうものですか？

おたがいに助けあって、いざというときにたよれる
ことよれること

おたがいの想いをききあえて、助け合いながら、
いざというときにも、おたがいたよれ合えること。
思っていることをちゃんと云え合えること。

・あなたにとって 友情とはどういうものですか？

優しくして仲のいい事。正しいアドバイスをくれる事。

相手のためになる事をしてくれる。考えをくれる。おしえて
くれる人々のおかげ。

事前アンケートを生かす

・あなたにとって 友情とはどういうものですか？

とても大切なもの

友達のことを考えて、友達は自分のことを考えて、信頼しているからこそ、ダメなことはダメといえるようなもの。

・あなたにとって 友情とはどういうものですか？

友としてバガ通じ合おう

友として互に助け合い信じ合おう
悪いことも注意心し合える。

・あなたにとって 友情とはどういうものですか？

大切な物 矢張りとてもツライもの

自分分のためを思ってくれとキミにロマンチックに
キズい物

授業構成の基本的な捉え（附坂小）

基本的な授業の構成（三つの場面）

導入	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階
展開	中心的な教材によって、子供一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

「終末」で大切にしたいこと

○自分のよさを実感したり, 自分の課題を見付けたりするとともに, 「自分の生き方」について深く考える。

・「主人公は～という気持ちでした」で終わる授業



・「自分にも～というよさがあることが分かった」「自分はこれから～していきたい」「和っていても難しいなあ」と考えられる授業



先生方の声

価値に関わる言葉は出てくるが、全員の児童にとって深まりのある終末にできたかどうか不確かだったこと。

学びを踏まえ、自分の生活を振り返り、つなげることができるようにするための大切なポイントは？

「終末」におけるポイント（附坂小）

「道徳的価値の理解に至った理由」「これからの生き方」等の振り返りの観点を大切にするとともに、

自分のよさを実感できる自己評価や相互評価を工夫する。

では、実際の授業を
ご覧ください。

終末場面 →



終末（自分の生き方を振り返る）

自分の生き方を振り返る4観点

課 これからは(自分の課題)

今まで「できていなかったなあ」「こうしておけばよかったなあ」から、**これから**自分にできることを考える。

良 これまでも(自分の良さ)

今までも正しいことややるべきことができていた自分を見付け、**もっともってできること**は無いかを考える。

友 心に残った友達の意見

授業中に「同じだ!」「そういう考えもあったのか!」と思えた友達の考えを思い出し、**なぜ友達の意見が心に残ったのか**を考える。

難 実行が難しいと思うこと

頭では、「やるべきこと」「正しいこと」は分かっているのだけど、**実行しよう**とすると、**なかなかできないことがある**んだよねあと感じる。

質疑・応答

ご指導

七條 正典 先生

2020/10/1

主体的・対話的で深い学びの
実現に向けた道徳科の授業づくり

高松大学 七條 正典

令和2年度「特別の教科 道徳」の授業づくりワークショップ（附坂小）

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた道徳科の授業づくり」

高松大学 七條正典

1 答申等から見る「主体的・対話的で深い学び」

(1) 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（中教審答申）

・ 自主的に学ぶ姿勢

◎ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善→主体的・対話的で深い学び

・ 「チーム学校」の考え（H. 27. 12. 21.）

(2) 「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」（教養審答申 H. 9. 7.）

・ 今後特に教員に求められる具体的資質能力・・・グローバル化

（地球的視野に立って行動するための資質能力）

国際社会で必要とされる基本的資質能力；国際理解だけ×

→ 考え方や立場の相違を受容し多様な価値観を尊重する態度（多様性の尊重）

(3) 「人権教育の指導方法等の在り方について＜第三次とりまとめ＞

（人権教育の指導方法等に関する調査研究会議 H. 30. 3.）

＜人権教育の目標＞

・・・「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる・・・

（自他の尊重）

(4) 「第3期教育振興基本計画」（H. 30. ～R. 4.）

・ 「自立」「協働」「創造」の方向性の継承

「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら

新たな価値を創造する人材の育成」

2 「主体的・対話的で深い学び」を考える～一体的な学び・学びの連続性～

(1) 一体的な学び

①自己を見つめ、教材と向き合う（主体的）

②課題意識・自分なりの考えをもつ（主体的）～「学び合い」の出発～
自立；inter-dependence（相互依存）

③自分の考えと他者の考えとを比較照合する（対話的）～相互理解・相互承認～

④自らの考えの確認・修正、新たな価値の発見・創造（深い学び）～学びの振り返り～

(2) 学びの連続性

・スパイラルな学びの連続を通して、「生きて働く」より深い学びへ

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を支える視点～生徒指導の3機能を生かす～

- ・一人一人の考えを大切に（自己存在感）
- ・受容的・共感的な学級風土を大切に（共感的な人間関係）
- ・自ら主体的に取り組む姿勢を大切に（自己決定・可能性の開発）

(2) 学び合う場の工夫

- ・多様な話し合いの場づくり
- ・一人一人の考えが生かされ、深まりのある交流の工夫
- ・交流を通して、子どもが自らの考えのよさや問題点に気付けるよう工夫
→正答主義からの脱却

(3) 多様な他者との出会い

- ・保護者参加型の授業、地域の人材活用、T・T・
- ・地域に開かれたカリキュラム（学びの場を広げる）

(4) 道徳ノートの活用による評価の工夫

4 これからの道徳教育充実のための推進体制

(1) 教科等横断的な指導→「総合単元的な道徳学習」

(2) 教師の協働による指導体制（チーム学校）→「ローテーション型道徳」

1 道徳科において大切にしたい授業づくりの視点 ～道徳科の特質を生かした「主体的・対話的で深い学び」のある授業～

はじめに

「自分はどう生きたいか、なにを大切にするのか、心の芯を大切に育てなさい」。この言葉は、気仙沼ニッティング社長の御手洗瑞子(みたらいたまこ)さんが小学校6年生の時、担任から「将来なにになりたいか」と問われ悩んでいた際にお母さんから送られたアドバイスである。平成29年1月9日(月)の四国新聞に「心の芯を大切に育てよう」と題され、掲載されたものである。

これと全く同じ視点が、道徳教育の充実に関する懇談会(平成25年12月)の中でも「道徳教育においては、・・・人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、考えを深め、自らの生き方を育てていく事が求められる。」(下線部筆者)と述べられている。

人として何を大切にするか、自分はどのように生きるべきかという心の芯を育てるためには、やはり道徳教育の要である道徳科の授業を通して道徳的価値についての理解を深める機会を持つことが何よりも大切である。

平成27年3月の改訂によって、これまでの「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」(道徳科)となった。つまり、道徳の教科化である。この教科化の本旨は、道徳の授業の実質化を図ることにある。具体的には、道徳の授業の量的確保(時間数の確保)と質的充実(授業内容の充実)である。そのための改善方策として、教科化に伴い検定教科書の導入と評価の充実(指導要録に記述欄を設けるなど)が示されたが、特に授業の質的改善の観点からは「目標・内容の見直し」や「多様で効果的な指導方法への改善」が重要なポイントとなる。

1 道徳科の特質を生かした授業づくり

道徳科の授業づくりの第1のポイントは、道徳科の特質を生かした授業づくりである。

これまでの授業を見直し、その質的改善を図る上で重要となるのが、目標の見直しである。今回の改訂においては、道徳科の特質を明確化するとともに、

道徳授業のイメージが具体的に持てるよう目標の見直しを行った。それは、道徳の授業を実施する教師にとって、よりねらいに即した授業の具現化を図ることにつながる。つまり、道徳授業の質的改善のためには、何よりもまず目標を見直しその特質の明確化を図ることが前提条件となる。

そこで、改めて道徳科の特質について確認しておきたい。小学校学習指導要領解説道徳編において、道徳科の特質は以下のように示されている。

「道徳科は、児童一人一人が、ねらいに含まれる一定の①道徳的価値についての理解を基に、②自己を見つめ、物事を③多面的・多角的に考え、④自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。」(数字と下線は筆者)

道徳科の特質として明示されているのは、①道徳的価値についての理解を基に、それを②自分自身との関わりにおいてとらえ(主体的)、③多面的・多角的に考える(対話的)ことを通して、④自己の生き方についての考えを深める学習(深い学び)を行うというものである。ここに道徳授業のイメージが具体化され、道徳授業の成立要件として押さえておくべき4つの要素が示されている。このことをしっかりと踏まえて道徳科の授業づくりを行うことが望まれる。

2 「考え、議論する」ことを重視した授業づくり

道徳科の授業づくりの第2のポイントは、「考え、議論する」こと(「主体的・対話的で深い学び」)を重視した授業づくりである。

上記の①道徳的価値についての理解と、④自己の生き方についての考えを深めることは、道徳科の授業として大前提である。今回道徳の改訂において強調された「考え、議論する」ことを重視した授業づくりにおいては、②の道徳的価値について自己との関わりにおいてとらえること(主体的)や、③の一面的な考えから多面的・多角的な考えへと深めていくこと(対話的で深い学び)こそが、授業改善の重要なポイントとなる。そのためにも、道徳に係る教育課程の改善方策で示された「多様で効果的な指導方法」を活用して授業づくりの工夫改善を図ることが求められる。

その第一は、多様な考え方を生かすための指導の工夫である。具体的には、「言語活動」を中心に、ペア学習やバズ学習、ディベートなどの話し合いの形態

1 道徳科において大切にしたい授業づくりの視点 ～道徳科の特質を生かした「主体的・対話的で深い学び」のある授業～

はじめに

「自分はどう生きたいか、なにを大切にするのか、心の芯を大切に育てなさい」。この言葉は、気仙沼ニッティング社長の御手洗瑞子(みたらいたまこ)さんが小学校6年生の時、担任から「将来なにになりたいか」と問われ悩んでいた際にお母さんから送られたアドバイスである。平成29年1月9日(月)の四国新聞に「心の芯を大切に育てよう」と題され、掲載されたものである。

これと全く同じ視点が、道徳教育の充実に関する懇談会(平成25年12月)の中でも「道徳教育においては、・・・人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、考えを深め、自らの生き方を育てていく事が求められる。」(下線部筆者)と述べられている。

人として何を大切にするか、自分はどのように生きるべきかという心の芯を育てるためには、やはり道徳教育の要である道徳科の授業を通して道徳的価値についての理解を深める機会を持つことが何よりも大切である。

平成27年3月の改訂によって、これまでの「道徳の時間」が「特別の教科道徳」(道徳科)となった。つまり、道徳の教科化である。この教科化の本旨は、道徳の授業の実質化を図ることにある。具体的には、道徳の授業の量的確保(時間数の確保)と質的充実(授業内容の充実)である。そのための改善方策として、教科化に伴い検定教科書の導入と評価の充実(指導要録に記述欄を設けるなど)が示されたが、特に授業の質的改善の観点からは「目標・内容の見直し」や「多様で効果的な指導方法への改善」が重要なポイントとなる。

1 道徳科の特質を生かした授業づくり

道徳科の授業づくりの第1のポイントは、道徳科の特質を生かした授業づくりである。

これまでの授業を見直し、その質的改善を図る上で重要となるのが、目標の見直しである。今回の改訂においては、道徳科の特質を明確化するとともに、

道徳授業のイメージが具体的に持てるよう目標の見直しを行った。それは、道徳の授業を実施する教師にとって、よりねらいに即した授業の具現化を図ることにつながる。つまり、道徳授業の質的改善のためには、何よりもまず目標を見直しその特質の明確化を図ることが前提条件となる。

そこで、改めて道徳科の特質について確認しておきたい。小学校学習指導要領解説道徳編において、道徳科の特質は以下のように示されている。

「道徳科は、児童一人一人が、ねらいに含まれる一定の①道徳的価値についての理解を基に、②自己を見つめ、物事を③多面的・多角的に考え、④自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。」(数字と下線は筆者)

道徳科の特質として明示されているのは、①道徳的価値についての理解を基に、それを②自分自身との関わりにおいてとらえ(主体的)、③多面的・多角的に考える(対話的)ことを通して、④自己の生き方についての考えを深める学習(深い学び)を行うというものである。ここに道徳授業のイメージが具体化され、道徳授業の成立要件として押さえておくべき4つの要素が示されている。このことをしっかりと踏まえて道徳科の授業づくりを行うことが望まれる。

2 「考え、議論する」ことを重視した授業づくり

道徳科の授業づくりの第2のポイントは、「考え、議論する」こと(「主体的・対話的で深い学び」)を重視した授業づくりである。

上記の①道徳的価値についての理解と、④自己の生き方についての考えを深めることは、道徳科の授業として大前提である。今回道徳の改訂において強調された「考え、議論する」ことを重視した授業づくりにおいては、②の道徳的価値について自己との関わりにおいてとらえること(主体的)や、③の一面的な考えから多面的・多角的な考えへと深めていくこと(対話的で深い学び)こそが、授業改善の重要なポイントとなる。そのためにも、道徳に係る教育課程の改善方策で示された「多様で効果的な指導方法」を活用して授業づくりの工夫改善を図ることが求められる。

その第一は、多様な考え方を生かすための指導の工夫である。具体的には、「言語活動」を中心に、ペア学習やバズ学習、ディベートなどの話し合いの形態

主体的・対話的で深い学びを考える

<ポイント1>

道徳科の特質を生かした授業づくり

→ 目標の見直し

○道徳科の特質の明確化

○道徳授業のイメージの具体化

道徳科の目標とその特質

<目標>

「第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、①道徳的諸価値についての理解を基に、②自己を見つめ、物事を(広い視野から)③多面的・多角的に考え、④自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」(括弧内中学校) (①～④筆者)

☆ 道徳科の特質を生かした授業づくり

(1) 道徳的諸価値についての理解；よりよく生きる上で大切なもの

(2) 自己を見つめ；自分自身との関わりの中で深める（自我関与）

→体験的な学習（役割演技など）

体験を生かす学習（これまでの体験を想起し振り返るなど）

(3) 多面的・多角的に考え；視点の<転換><拡大><深化>

(4) 自己（人間として）の生き方についての考えを深める

；自分はどのように生きるべきか

(1)～(4)の4つの要素を押さえた学習を通して、

☆道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度を育てる

※「考え, 議論する道徳」「主体的, 対話的で, 深い学び」へ

主体的・対話的で深い学びのある 授業づくり

<ポイント2>

- 「考え、議論する」ことを重視した授業づくり
- 多様で効果的な指導方法の工夫

多様で効果的な指導方法の工夫

○道徳科の特質を生かした「考え、議論する道徳」への質的転換

(1) 多様な考え方を生かすための指導方法の工夫

「言語活動」：ペア学習・バズ学習・ディベートなど話し合いの工夫

ホワイトボードや付箋紙の活用など書く活動の工夫

「非言語」：心の天秤・心情円盤など

(2) 多面的・多角的な視点から学び合う工夫

問題解決的な学習，保護者参加型の授業，地域の人材を活用した授業

(3) 自らのこととつなげて考えることのできる工夫

ロールプレイなど「体験的な学習」，日常の体験の想起など

→「考え、議論する」（語り合う）道徳の具体化

主体的・対話的で深い学びとなる評価

<ポイント3>

○学びの過程を振り返り,

自己評価できる授業づくり

○指導と評価の一体化

☆ 指導と評価の一体化

(1) 評価の視点

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
→授業づくりの視点

(2) 評価の工夫

- 学びの過程を振り返り，学びを深める自己評価（ノートの活用）
→主体的で・意欲的な学びを促す

ご質問

「なぜかしの木の下で話し合ったことを言わなかったのか」という発問で熱量が下がってしまった経験があります。どのような扱い方をしようかと悩んでいます。

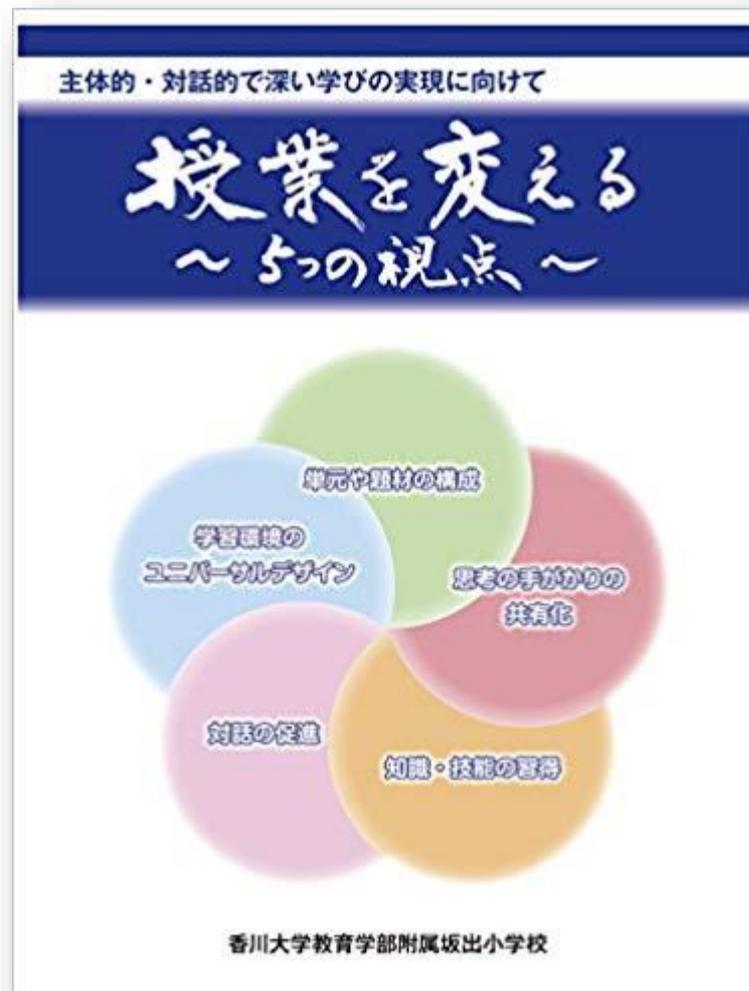
さらに深く学びたい方へ

「授業を変える ～5つの視点～」

香川大学教育学部附属坂出小学校

道徳だけでなく、新学習指導領
に対応した各教科の実践例が掲
載されています。

見本がありますので、ぜひ手に
取ってご覧ください！





23日(土) 実践事例提案

国・社・算・理・音・図・家・体・道・保健室経営

29日(金) シンポジウム

本校の研究提案や実践事例を基に最新の情報を交えながら本校の研究についてご意見をいただきます。

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課
副課長兼教育推進班長

香川大学教育学部 准教授

田中 裕一 先生

岡田 涼 先生

香川県教育センター 主任指導主事

香川大学教育学部 教授(本校校長)

白川 章弘 先生

坂井 聡

香川大学教育学部附属坂出小学校

住所：〒762-0031 香川県坂出市文京町二丁目4番2号 TEL：0877-46-2692

E-mail：sakaide@kagawa-u.ac.jp

FAX：0877-46-5218

URL：http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/



小学校 HP

香川大学教育学部附属坂出小学校・附属幼稚園教育研究発表会のご案内

第102回 小学校教育研究発表会研究主題

互いに磨き合い、学び続ける子供の育成(3年次)
- 個の発達に応じ、メタ認知を促す授業づくり -

オンライン研究会

令和3年1月23日(土) 実践事例提案
29日(金) シンポジウム

ZOOMを使ってこれまでにない
新しい形の研究会を開催

世界中どこからでも参加可能



第64回 幼稚園教育研究発表会研究主題

保育する ~子どもとつくる明日~

令和3年
1月29日(金)
オンライン研究会

講演

香川大学教育学部 教授
片岡 元子 先生



香川大学教育学部附属幼稚園

住所：〒762-0031 香川県坂出市文京町一丁目9番4号 TEL：0877-46-2694

E-mail：fuzokuen@ed.kagawa-u.ac.jp

FAX：0877-44-1262

URL：http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~fuzokuen/



幼稚園 HP

※詳細については後日送付する2次案内をご覧下さい。新型コロナウイルス感染拡大等で変更せざるを得ない場合はホームページにてお知らせいたします。

アンケートのお願い

チャット機能を利用して、
本ワークショップに参加しての
ご意見・ご感想を教えてください。

フリータイム

道徳科の評価の意義

児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

（学習指導要領「第一章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(1)）

道徳科の評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

第5章 第2節 道徳科における児童(生徒)の学習状況及び成長の様子についての評価

道徳科の評価の在り方

- ・数値による評価ではなく、記述式とすること
- ・個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上に配慮を行うこと
- ・調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること

主体的に生きるとは 自分を問う営み

○ 「よりよく生きる」ための問い

- ・『メノン』

「徳は教えることができるのか」に対する
ソクラテスの問い「徳とはそもそも何なのか」

- ・『たった一つを変えるだけ』

「メタ認知」をしている時の頭の中は「問い」